

日本労働組合評議会
第一回拡大中央委員会

中し資本の没落に伴ひ金融資本の暴威は労働階級に對する壓迫を愈々組織化してゐる。

分烈の買収中傷がブルジョアの最上の特權的政策であるがために吾が無産階級が總聯合を形成して先づ經濟的闘争を統一化する過程として、地方協議會の樹立を主張して来たものであつた。

而して吾々の地方協議會組織の努力は主として労働階級の一般的問題を取扱ひ、即ち大業、政黨、労働法制等の問題に於ける協同戦線として、あつた。

然し乍ら地方協議會並に總聯合は単に協議機關であつたならば、即ち行動の團體として作れはならぬ。それは日本常同争の方面に於ける協同戦線に基礎を置かなければならぬ。

吾々の過去の経験は、其の裏に就いては充分であつた事を認めざるを得ない。而して全国的總聯合の最も重要なこと

は、その組織の統一である。即ち大業、政黨、労働法制等の問題に於ける協同戦線として、あつた。